

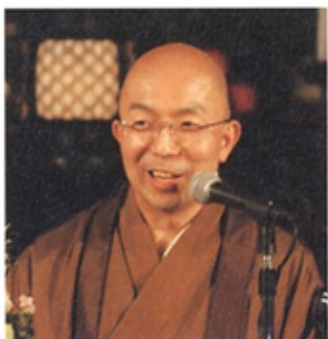
いくというところは、物質的にも精神的にもしんどくなるような気がします。そこで、物質的には少し足りなくなってきたとしても、精神的にはいかに豊かに生きていけるかということが大事だと思っております。その時の発想としては、先ほど言ったように、それぞれが返していく、ということに尽きるのではないかと思っております。でも、難しいことですね。

石出 お二人の「宗教家」のお話しを聞きながら、どちらに入門しようかと考えておりました(笑)。

私は、もう少し、国産材を使うというお話しをしたいと思います……

梶田 あつ、そのことで今思い出したことがあります。

「森の教室」を始めた頃ですが、東南アジアの、フィリピンとかタイの方が日本へ来られて、いちばん驚かれるのは、日本では木がなくなつたから、ウチに来て木を伐つているのだと思つて



いたと。でも、日本へ来てみたら、山は木であふれていて、なぜこんなにたくさんあるのに、東南アジアの国々で木を伐つて帰るのか、それが不思議だ。というのを十五年以上前に聞きました、それからこれはおかしいぞ、というふうに思っていましたら、石出さんが出てこられた、ということですね。

住宅建築の 合理化という名の 下の 腕のいい職人と 日本の森が 廃れた

しかし、住宅というのは商品では
ありません。住む人が自分の家をつ
くる、大工さんと一緒になつてつく
る、建築家と一緒になつてつくる、
というものだと思うのです。もう一
度、そこに戻す必要があると考え
ています。腕のいい、大工さんや、
左官屋さんといった職人がいなくな
れば、これは大変な損失ではないか
かと思うのです。

京都のようなすばらしい場所
で、住宅の七十%以上がハウスメーカー
の家です。これはちよつとどうかと
思います。家というのは、一棟一棟、



自分の丈にあつた、そして、子供の
ため、孫のためにつくっていくとい
うのが正しいのではないだろうか。
今は外国材を使つているハウスメ
ーカーが、国産材を使うようになれ
ば、森が活気づきますし、またそ
うなつてほしいと願っています。

**自分たちの
身の回りのことは
人に任せず、
自分たちでしよう**

千 先ほど梶田君が布施の話
をされていましたが、臨済和尚とい
う方の言葉で「外に求むるなかれ、求
むるものあればすべて苦なり」とい
うものがあります。今それを思い
出しました。

これは、見返りを求めるなどとい
うことです。なにも、外に助けを求
めるな、孤立しろということではな
くて、依頼心というものが出過ぎ
ますと、今度はそれでけつまずく。

でも、お茶室の建築を見ましても、
昔から日本人がやつてきた建築とい
うのは、そこにある木を大事に使つ
て、先祖が植えた木とか、おじい
ちゃん植えた木とかです。家を建
ててきたと思うのです。その木を使
うということ、大工さんを生かす
ことなんです。ところがメーカーでは、
全部標準工法になつていて、腕のいい
大工さんは要らないようになってい
るのです。そういう風にしていくのが
住宅の合理化だと言われています。